

五十九期 (士59期)

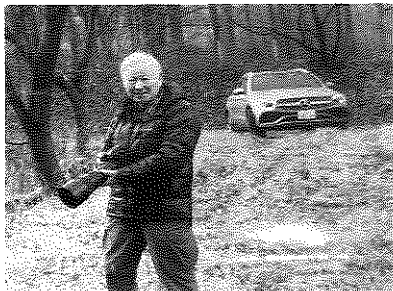
(経85期)

担当者
二世
神保 明生

鳥撮影の醍醐味はなんと云っても近距離から綺麗に撮れる時だ。勿論環境も必要だが特に難易度の高い生存数が少ない鳥が撮れば更に興奮する。北海道の釧路湿原で出会ったノゴマ(雄の喉に赤い斑があり日の丸の愛称がある)は目の前の木に2匹、真つ赤な日の丸を見せて夢中で囀っていた。息子と時間を忘れてカメラのシャッターを押し続けた。

昨年からコロナ騒ぎで遠距離の旅行は出来なくなつたが、何度か飛行機で撮影に行く所がある。其処は自然に湧く水場で雑草や雑木に囲まれた、野鳥にとつては絶好の場所になつている。キノコ採りの心情でと云うより公表すれば直ぐ「鳥人間」が集まり野鳥の楽園は消滅してしまふ大義名分、があるので雑誌やインターネットで調べても出てこない。適当な遮蔽物もあり、悠々と三脚にでかい望遠レンズを付けたカメラを息子と2台据え付け、早朝から薄暮まで粘る。普段お目に羅れない野鳥が次々とやってくる。クロムツギ、トラツグミ、オオルリ、ルリビタキ、アカハラ、マミジロ、ムシクイ、コサメビタキ、等々。足の長いヤブサメはしょっちゅう水浴びに来ていた。たまに狸等も水飲みに来て驚かされる。幸い熊とはまだ出遭っていない。この外沖繩で撮影したヤンバルクイナや石垣島のカンムリワシ、ヤツガシラ、北海道のオジロワシ、丹頂鶴、海水を飲むアオバ

ト等、また外道で出遭うカモシカ、アナグマ、テン、イタチ、タヌキ、キツネ、イノシシ、野生猿等撮影した写真も賑やかです。



撮影中の筆者



求愛中のメジロ